

令和3年度
全国学力・学習状況調査

～留萌市における結果の概要～

I	調査の概要	1 P
II	教科調査結果の概要	2 P
III	質問紙調査結果の概要	8 P
IV	おわりに	19 P

令和3年12月

留萌市教育委員会

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒

3 調査の内容

(1) 児童生徒に対する調査

① 国語、算数・数学

ア 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

イ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し評価・改善する力など

※上記を一体的に問う。

② 質問紙調査

- ・ 学習意欲、学習方法、学習習慣、生活の諸側面等に関する調査

(2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査実施日

令和3年5月27日(木)

5 調査を実施した学校・児童生徒数

	小 学 校		中 学 校	
	実施学校数	児 童 数	実施学校数	生 徒 数
全 国(公立)	18,857 校	994,101 人	9,320 校	903,253 人
北海道(公立)	972 校	36,456 人	567 校	34,700 人
留 萌 市	5 校	101 人	2 校	117 人

6 調査結果に関する留意事項

(1) 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。

(2) 本調査の結果においては、平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に注目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

備 考

※ 全国平均との差の表現について

- | | | | |
|--------|------|------|------|
| ・ 7%以上 | | 相当高い | 相当低い |
| ・ 5%以上 | 7%未満 | 高い | 低い |
| ・ 3%以上 | 5%未満 | やや高い | やや低い |

※ 調査結果発表に当たり、文部科学省は平均正答率について、整数値で公表していますが、留萌市では、実施してきた教育の成果を検証するため、従来のデータと整合性を持たせた分析が必要と判断し、提供されたデータをもとに、独自に算出した小数値で示しています。

II 教科調査結果の概要

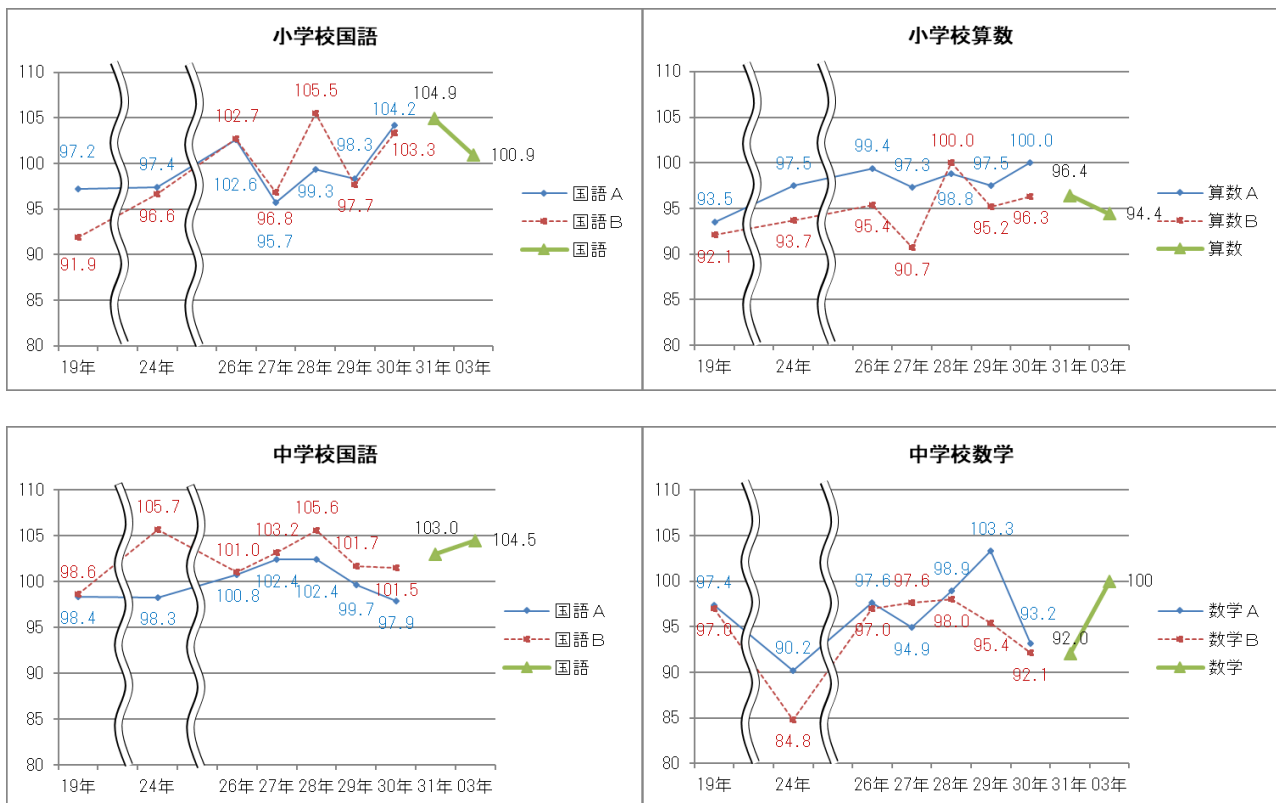
1 平均正答率から見る学力の状況の概要

(1) 令和3年度調査各教科の平均正答率(%)と全国・北海道との差

	小 学 校		中 学 校	
	国 語	算 数	国 語	数 学
留 萌 市	65.3	66.3	67.5	57.2
北 海 道	63.2	67.5	64.5	55.9
全 国	64.7	70.2	64.6	57.2
北海道との差	+ 2.1	- 1.2	+ 3.0	+ 1.3
全国との差	+ 0.6	- 3.9	+ 2.9	± 0.0

(2) 全国の平均正答率を100としたときの推移

※調査問題が毎年異なり、平均正答率を単純比較できないため、全国の平均正答率を100とする。
(市の平均正答率 ÷ 全国の平均正答率 × 100で算出)



- ◆国語は、全国の平均正答率を小学校で0.6ポイント、中学校で2.9ポイント上回った。算数数学は、全国平均正答率を小学校で3.9ポイント下回った。中学校は、差がなかった。
- ◆全国の平均正答率を100としたときの推移は、国語は、過去5回(平成28年度以降)で、小学校も中学校も97を上回って推移しており、ほぼ、全国平均並かそれ以上で推移している。算数数学は、過去5回(平成28年度以降)で、平成29年度数学Aを除いて、100以下(差は8ポイント以内)で推移している。

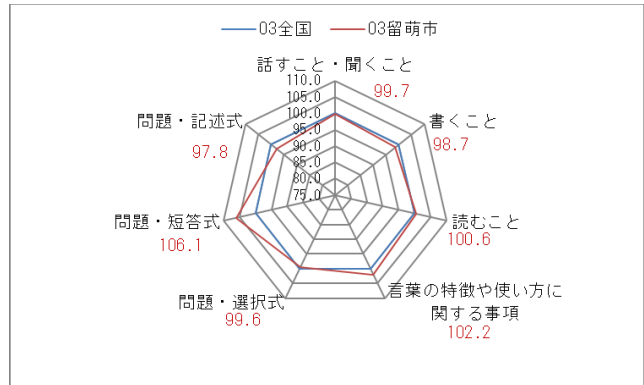
2 小学校国語

	平均正答数	平均正答率
留萌市	9.1問／14問	65.3%
北海道	8.9問／14問	63.2%
全国	9.1問／14問	64.7%

(1) 「領域別・問題別正答率」の傾向

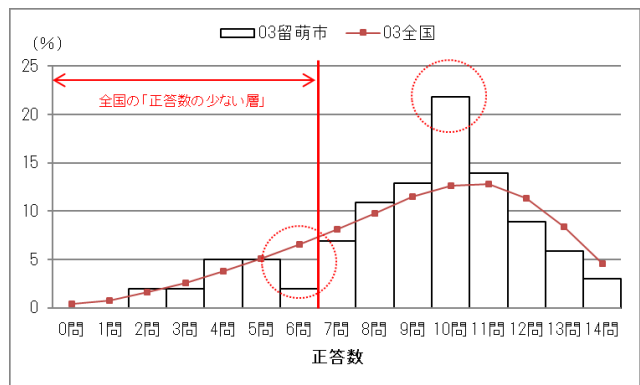
- ◆「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域は、全国と比べ全て同程度である。
- ◆短答式の問題については、全国と比べ高く、選択式・記述式の問題は全国と比べ同程度である。

(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)



(2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ◆14問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国が11問に対して10問である。
- ◆正答数が10問の児童数の割合が、全国と比べ相当高く、正答数6問の児童数の割合が、全国と比べやや低くなっている。



(3) 設問別の正答率の概要

①平均正答率が全国以上の設問数

H28	A : 9 / 15問	B : 7 / 10問
H29	A : 4 / 15問	B : 6 / 9問
H30	A : 8 / 12問	B : 6 / 8問
H31	12 / 14問	
R 3	6 / 14問	

②平均正答率が全国以下の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
言葉の特徴や使い方に関する事項	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	丸山さんの【文書の下書き】の中の(げんいん)を漢字を使って書き直す	69.3%	79.0%

国語において、留萌市の児童への指導の改善にあたっては

- 漢字の学習指導にあたっては、日常生活の中で適切に使うことができるようにすることが重要で、そのためには、読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、自分が書いた文章を読み返す中で、正しい使い方を習得できるようにすることが大切である。

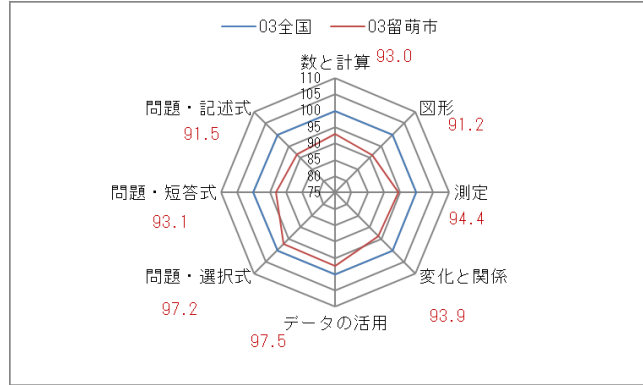
3 小学校算数

	平均正答数	平均正答率
留萌市	10.6問／16問	66.3%
北海道	10.8問／16問	67.5%
全国	11.2問／16問	70.2%

(1) 「領域別正答率」の傾向

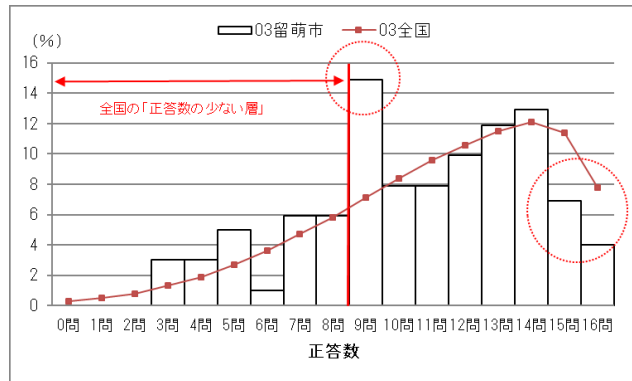
- ◆「数と計算」「図形」の領域は、全国と比べ相当低く、「測定」「変化と関係」の領域も、全国と比べ低い傾向である。
- ◆記述式の問題については、全国と比べ相当低く、短答式の問題は、低い傾向にある。

(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)



(2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ◆16問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国が14問に対し9問である。
- ◆正答数が9問の児童数の割合が全国と比べ相当高くなっており、正答数15問、16問の児童数の割合が全国と比べやや低い。



(3) 設問別の正答率の概要

①平均正答率が全国以上の設問数

H28	A : 5 / 16問	B : 7 / 11問
H29	A : 5 / 15問	B : 3 / 11問
H30	A : 6 / 14問	B : 4 / 10問
H31	5 / 14問	
R 3	4 / 16問	

②平均正答率が全国以下の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
数と計算 測定	二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる	二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く	54.5%	62.5%
変化と関係	速さを求める除法の式と商の意味を理解している	二つの速さを求める式の意味について正しいものを選ぶ	49.5%	55.8%
測定	条件に合う時刻を求めることができる	午後1時35分から50分後の時刻を書く	84.2%	89.2%
図形	三角形の面積の求め方について理解している	直角三角形の面積を求める式と答えを書く	43.6%	55.1%
データの活用	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる	学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ	86.1%	90.7%
データの活用	集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる	5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために、適切なデータを選ぶ	67.3%	73.9%
数と計算	示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる	余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く	73.3%	83.0%

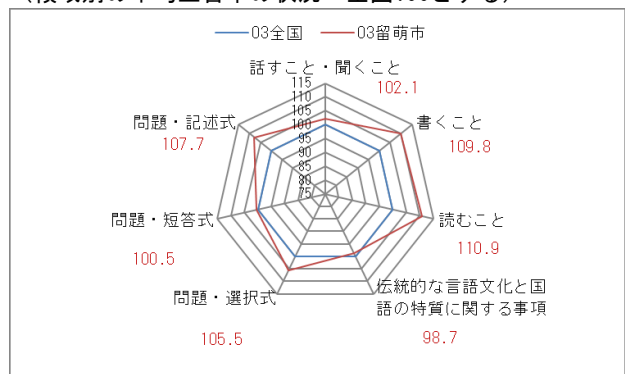
算数において、留萌市の児童への指導の改善にあたっては

- 日常生活の問題を解決するために、必要な数値を選び、具体的な場面に対応させながら、読み取った数値を適切に用いて式に表すことができるようにすることが重要である。
- どちらが速いかを比べる際には、単位量を道のり又は時間で比べる場合があり、どちらを単位量として設定しているかについて考え、速さを求める除法の式と商の意味を理解できるようにすることが重要である。
- ある事柄の開始時刻と終了時刻、所要時間の関係を捉えることができるようにすることが重要である。その際には、図と時計の模型を対応させるなど、時間が経過していく様子を視覚的に捉えることができるようにすることも大切である。
- 図形の面積の学習では、公式を導き出す過程において、図形のどこの長さに着目すると、面積を求める事ができるのかを理解できるようにすることが重要である。
- 棒グラフから、目的に応じて、各項目の数量の大きさを読み取ったり、最大値や最小値を捉えたりすることで、項目間の関係や集団のもつ全体的な特徴などを読み取ることができるようにすることが重要である。
- 興味関心や問題意識に基づき、児童自ら統計的な問題解決ができるようにすることが重要で、統計的に解決可能な問題を設定することや、設定した問題に対してどのようなデータを集めるべきかを判断できるようにすることが大切である。
- 日常生活の問題を除法で解決した結果に余りがある場合、その結果を元の事象に戻して考え、目的に応じて、処理の結果である余りを、元の事象に当てはめて解釈できるようにすることが重要である。その際、日常生活の問題場面に照らし合わせて妥当かどうか判断し結論をえることができるようにすることが大切である。

4 中学校国語

	平均正答数	平均正答率
留萌市	9.4問／14問	67.5%
北海道	9.0問／14問	64.5%
全国	9.0問／14問	64.6%

(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)

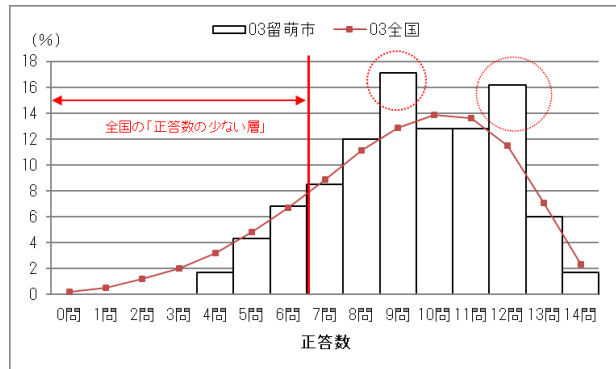


(1) 「領域別・問題別正答率」の傾向

- ◆「書くこと」「読むこと」の領域は、全国と比べ相当高い傾向である。
- ◆記述式の問題については、全国と比べ相当高く、選択式の問題については、全国と比べ高い傾向にある。

(2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ◆14問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国が10問に対して9問である。
- ◆正答数が9問と12問の生徒数の割合が、全国と比べやや高くなっている。



(3) 設問別の正答率の概要

①平均正答率が全国以上の設問数

H28	A : 27／33問	B : 9／9問
H29	A : 18／32問	B : 5／9問
H30	A : 14／32問	B : 6／9問
H31	8／10問	
R 3	11／14問	

②平均正答率が全国以下の設問から特に取り上げる設問なし

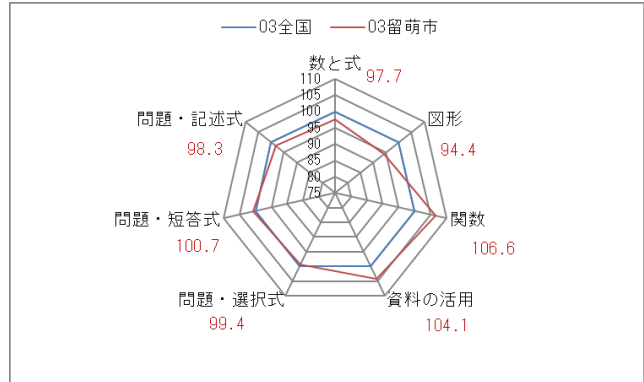
5 中学校数学

	平均正答数	平均正答率
留萌市	9.2問／16問	57.2%
北海道	8.9問／16問	55.9%
全国	9.1問／16問	57.2%

(1) 「領域別・問題別正答率」の傾向

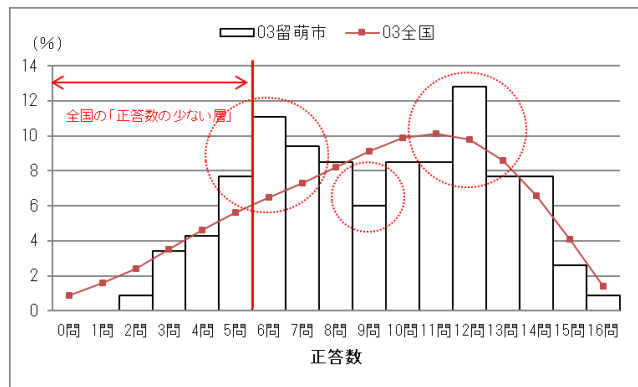
- ◆「関数」の領域は、全国と比べ高く、「資料の活用」の領域は、全国と比べやや高い。「図形」の領域は、全国と比べ低い傾向である。
- ◆選択式・短答式・記述式の問題については、全国と比べ大きく差がない。

(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)



(2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ◆16問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国が11問に対して12問である。
- ◆正答数が6問と12問の生徒数の割合が全国と比べやや高く、9問の生徒数の割合が全国と比べやや低くなっており、2つのピークが認められる。



(3) 設問別の正答率の概要

①平均正答率が全国以上の設問数

H28	A : 17 / 36問	B : 7 / 15問
H29	A : 23 / 36問	B : 6 / 15問
H30	A : 9 / 36問	B : 1 / 14問
H31	3 / 16問	
R 3	9 / 16問	

②平均正答率が全国以下の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
数と式	整式の加法と減法の計算ができる	$(5x + 6y) - (3x - 2y)$ を計算する	65.8%	77.1%
数と式	具体的な場面で、一元一次方程式をつくることのできる	数量の関係を一元一次方程式で表す	66.7%	71.3%
資料の活用	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	6.8%	11.1%
図形	ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる	$\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでもいえることを書く	22.2%	28.8%

数学において、留萌市の生徒への指導の改善にあたっては

- 文字を用いた式の計算が確実にできるようにするために、計算の法則を確認したり計算の過程を振り返ったりする活動を取り入れることが大切である。
- 問題解決の場面で方程式を活用する際に、問題の中にある数量やその関係を捉え、一元一次方程式をつくる事ができるように指導することが大切である。さらに、それを解き、求めた解を問題に即して解釈し、問題の答えを求めるといった一連の活動を経験することにより、方程式を活用することのよさを実感できるようにすることが大切である。
- データの分布の様子を捉える場面を設定し、データの傾向を的確に捉えて判断できるように指導することが大切である。
- 条件を保ったまま動かした図形を観察し、辺や角について変らない性質を見出す活動を取り入れ、ある条件の下でいつでも成り立つ性質や関係を捉え、それを数学的に表現する事ができるように指導することが大切である。

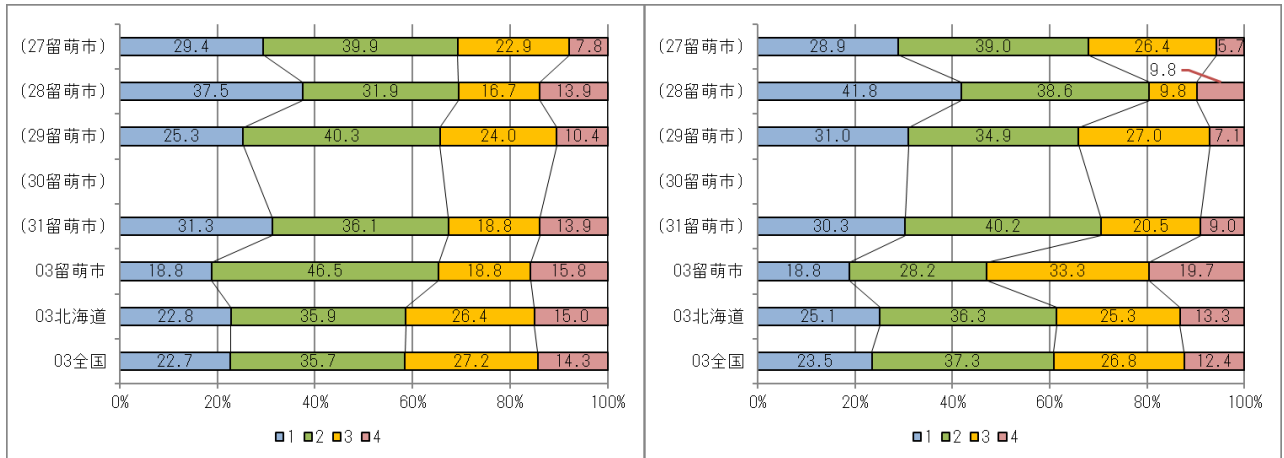
Ⅲ 質問紙調査結果の概要

※各質問項目に対するグラフの左が小学校、右が中学校である。

1 学習に対する興味・関心や授業の理解度等〈児童生徒〉

(1) 国語の勉強は好きですか

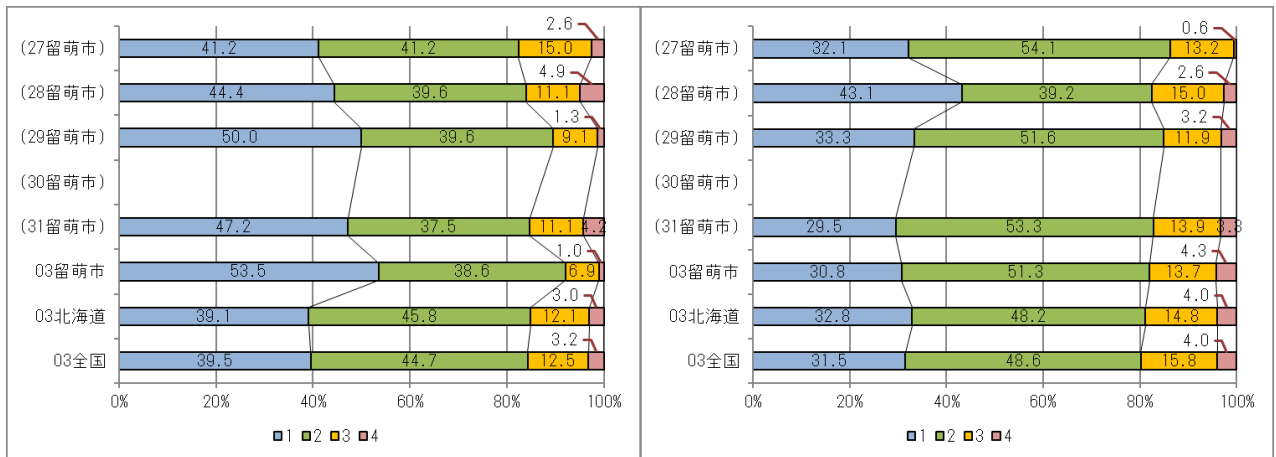
1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない



※ 平成30年度は質問なし

(2) 国語の授業の内容はよく分かりますか

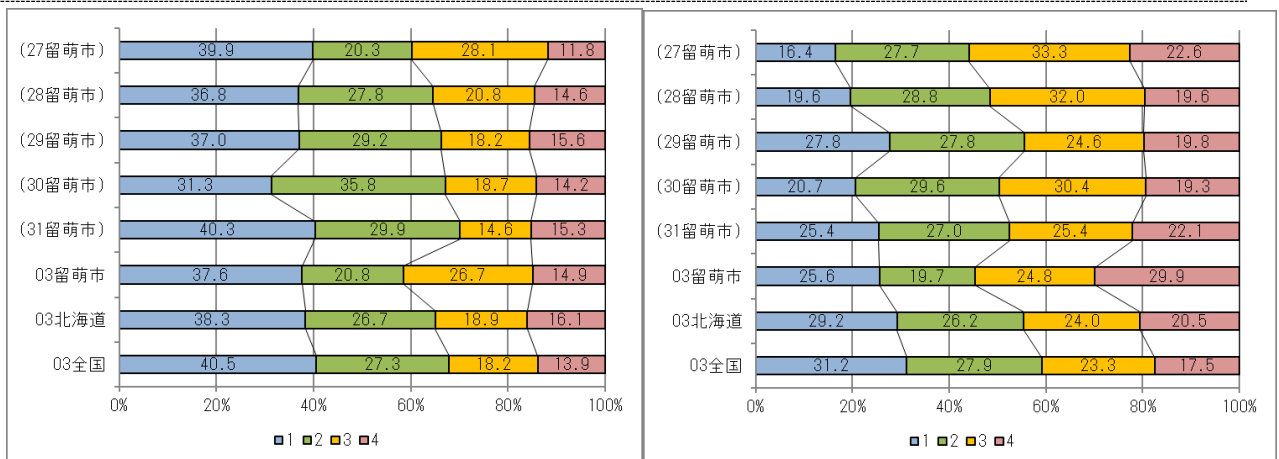
選択肢は(1)と同様



※ 平成30年度は質問なし

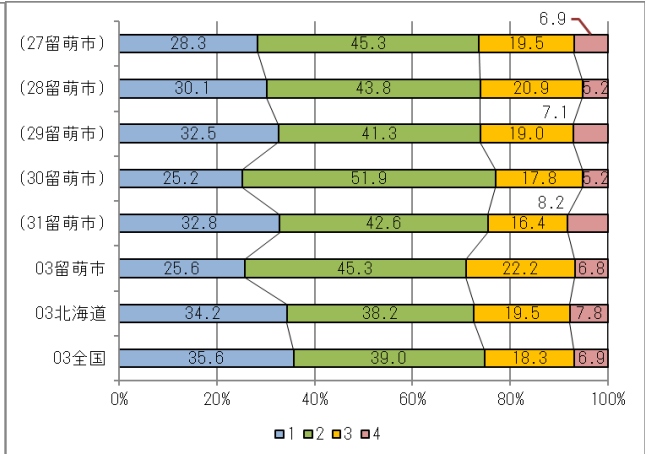
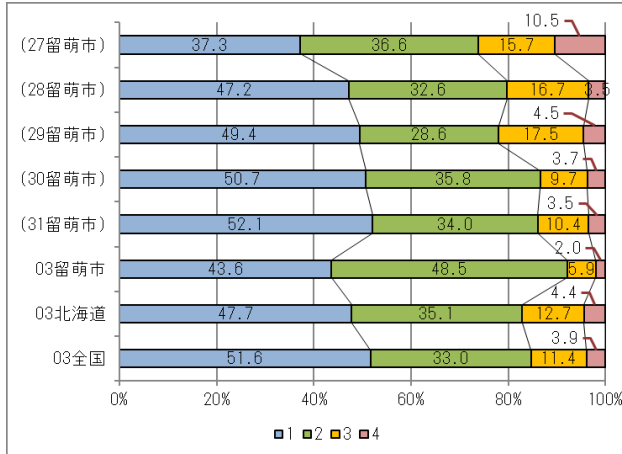
(3) 算数(数学)の勉強は好きですか

選択肢は(1)と同様



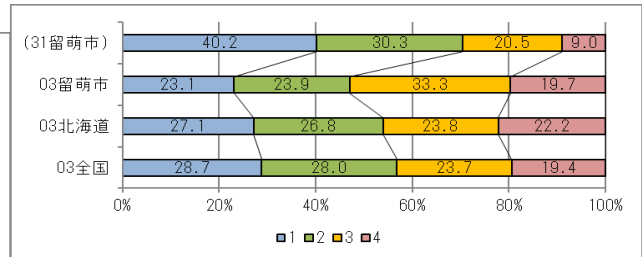
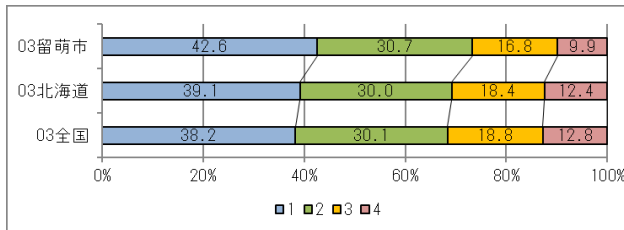
(4) 算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか

選択肢は(1)と同様



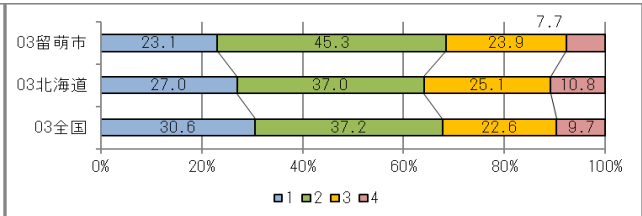
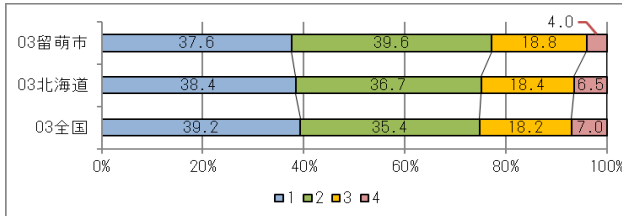
(5) 英語の勉強は好きですか(小学校新規)

選択肢は(1)と同様



(6) 5年生まで(1, 2年生のとき)に受けた授業では、英語で自分の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか(新規)

選択肢は(1)と同様



【小学校】

- ◆国語の勉強が好きであると肯定的に回答した児童の割合は、全国より高い。
- ◆国語の授業の内容がよく分かると肯定的に回答した児童の割合は、全国より相当高く、平成31年度に比べても相当高い。
- ◆算数の勉強が好きであると肯定的に回答した児童の割合は、全国より相当低く、平成31年度に比べても相当低い。
- ◆算数の授業の内容がよく分かると肯定的に回答した児童の割合は、全国より相当高く、平成31年度に比べても高い。
- ◆英語の勉強が好きであると肯定的に回答した児童の割合は、全国よりやや高い。

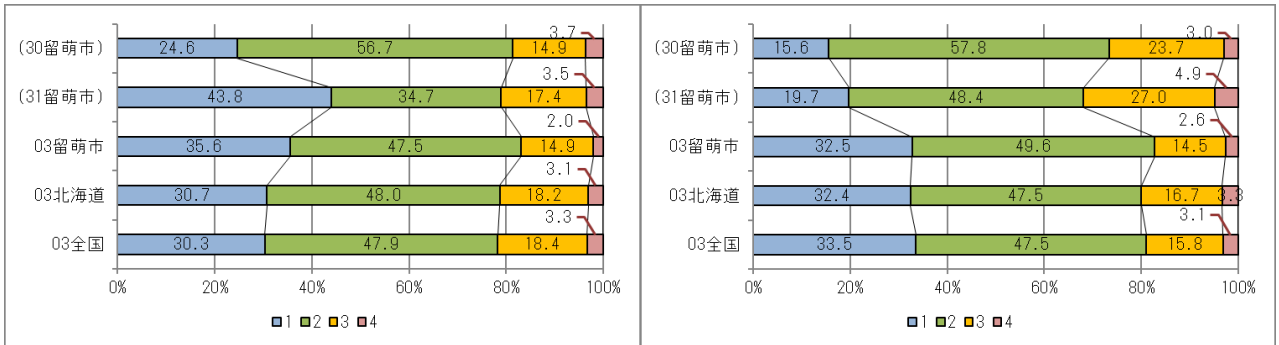
【中学校】

- ◆国語の勉強が好きであると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より相当低く、平成31年度と比べても相当低い。
- ◆数学の勉強が好きであると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より相当低く、平成31年度と比べても相当低い。
- ◆数学の授業の内容がよく分かると肯定的に回答した生徒の割合は、全国よりやや低く、平成31年度と比べてもやや低い。
- ◆英語の勉強が好きであると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より相当低く、平成31年度と比べても相当低い。

2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善等に関する取組状況<児童生徒・学校>

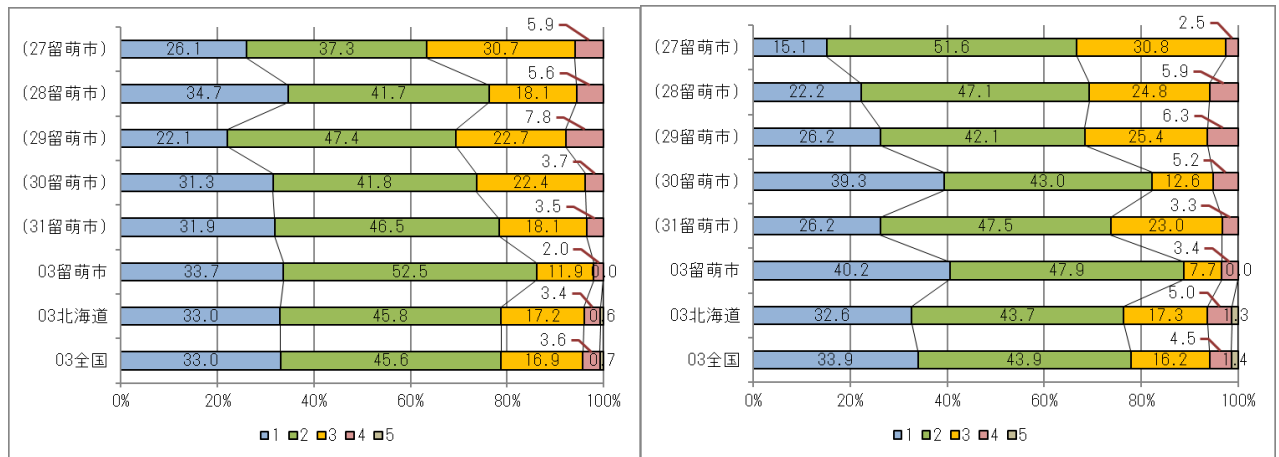
(1) 5年生までに(1、2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない



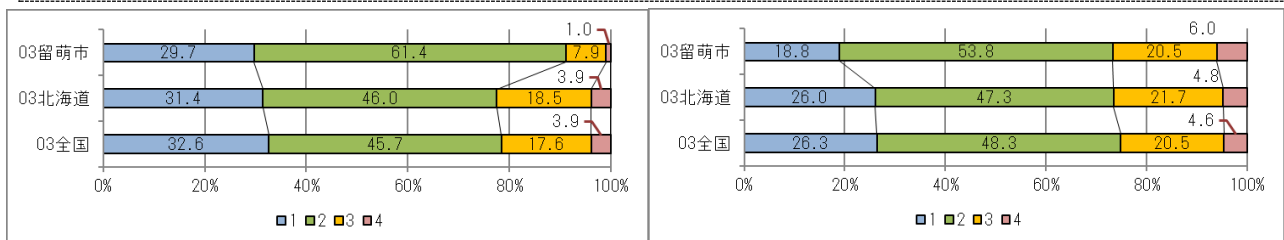
(2) 学級の友達と(生徒)の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない 5 学級の友達と話し合う活動を行っていない



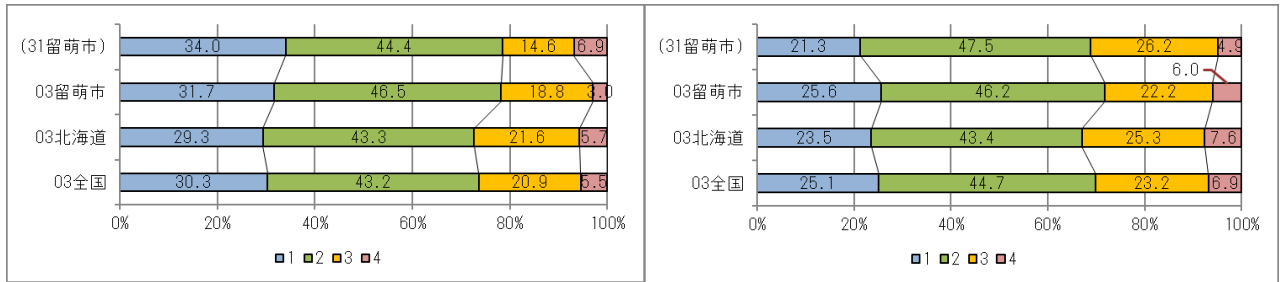
(3) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。(新規)

選択肢は(1)と同様



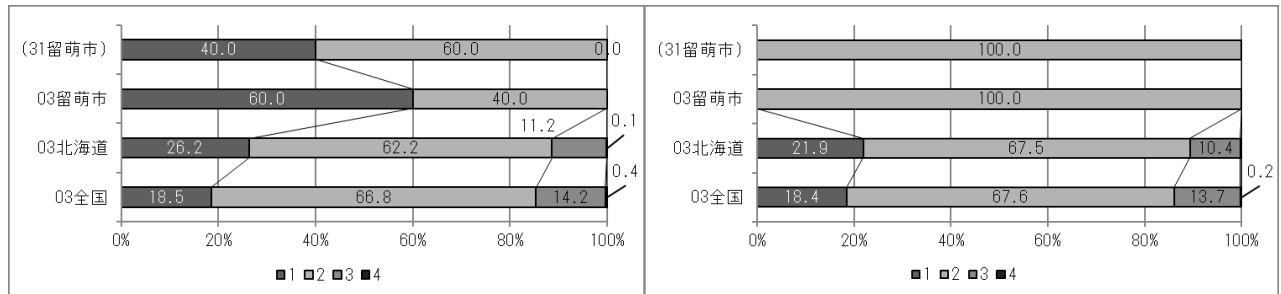
(4) 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか

選択肢は(1)と同様



(5) 調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

- 1 そう思う 2 どちらかと言えば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない



【小学校】

- ◆ 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思うと回答した児童の割合は全国よりやや高く、平成31年度と比べてもやや高い。
- ◆ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うと回答した児童の割合は全国より相当高く、平成31年度と比べても相当高い。
- ◆ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した児童の割合は、全国より相当高い。
- ◆ 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると回答した児童の割合は、全国よりやや高い。
- ◆ 調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うと全ての学校が回答している。

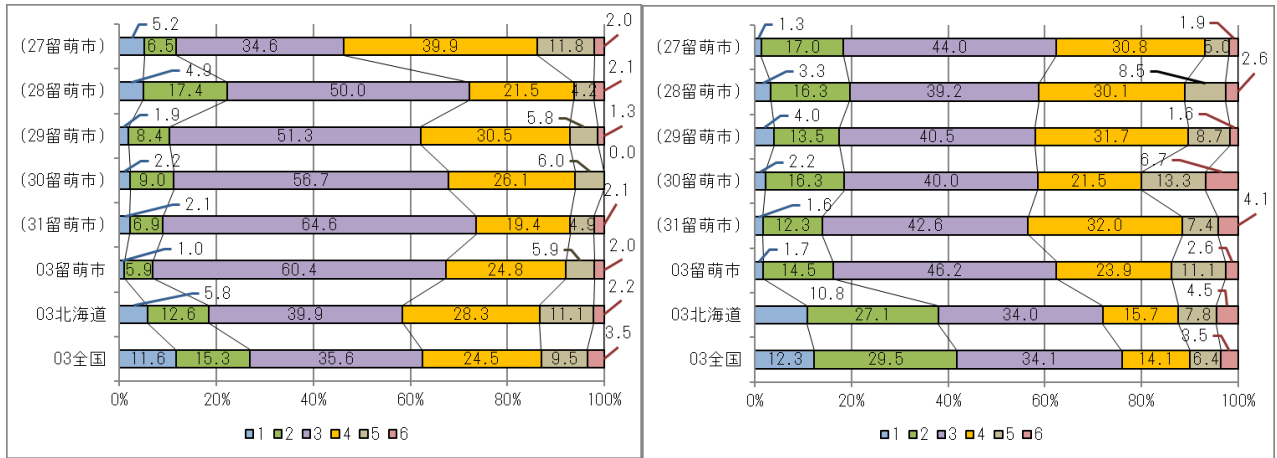
【中学校】

- ◆ 2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思うと回答した生徒の割合は、平成31年度と比べて相当高い。
- ◆ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うと回答した生徒の割合は全国より相当高く、平成31年度と比べても相当高い。
- ◆ 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると回答した生徒の割合は、平成31年度と比べてやや高い。
- ◆ 調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うと全ての学校が回答している。

3 学習習慣等<児童生徒>

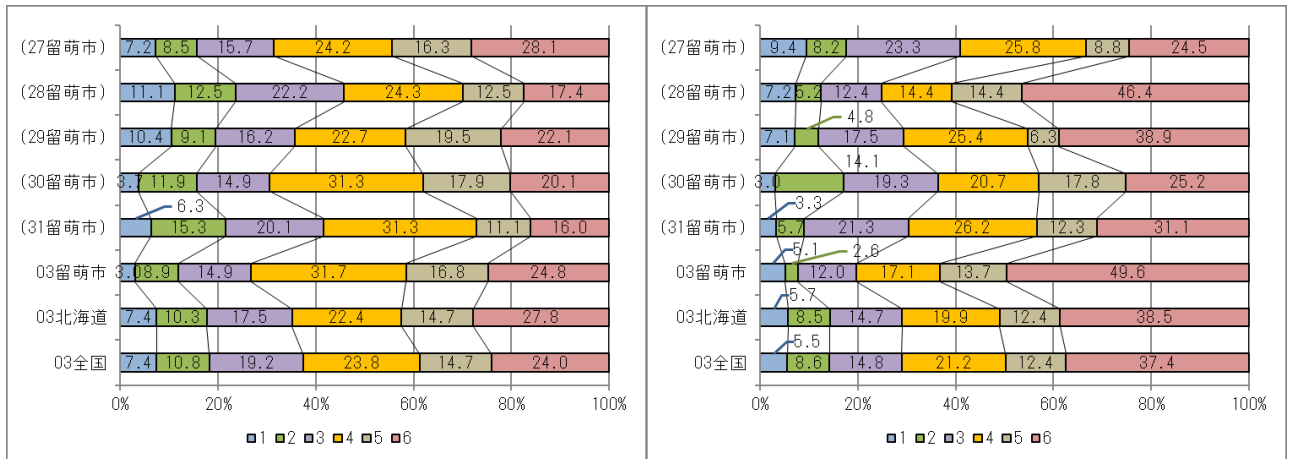
(1) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
 (学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)

- 1 3時間以上 2 2時間以上、3時間より少ない 3 1時間以上、2時間より少ない
 4 30分以上、1時間より少ない 5 30分より少ない 6 全くしない



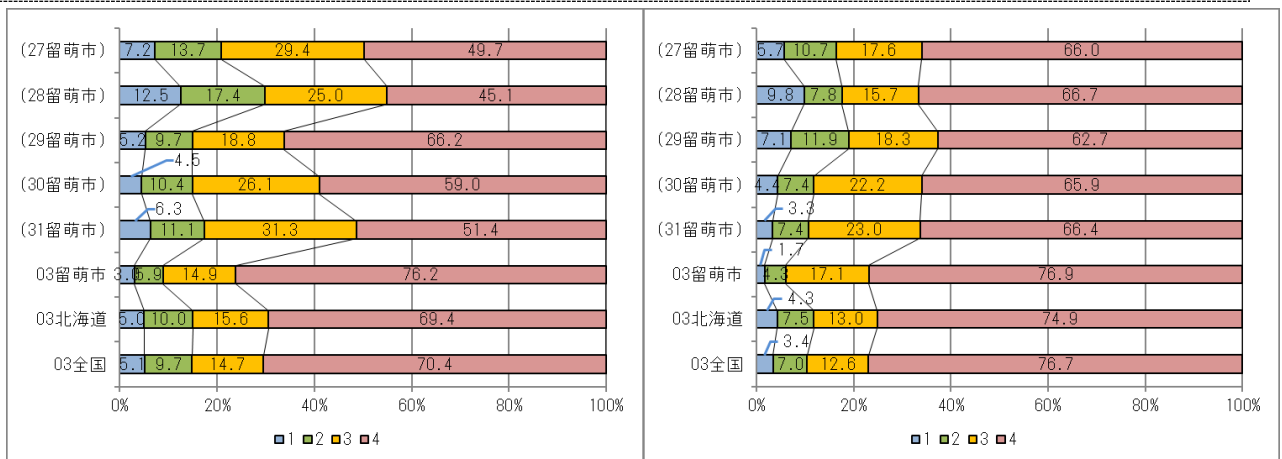
(2) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか
 (教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

- 1 2時間以上 2 1時間以上、2時間より少ない 3 30分以上、1時間より少ない
 4 10分以上、30分より少ない 5 10分より少ない 6 全くしない



(3) 新聞を読んでいますか

- 1 ほぼ毎日読んでいる 2 週に1～3回程度読んでいる 3 月に1～3回程度読んでいる
 4 ほとんど、または、全く読まない



【小学校】

- ◆ 普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上勉強をすると回答した児童の割合は、全国よりやや高く、平成31年度と比べて低い。
- ◆ 普段（月～金曜日）、1日当たり30分以上読書すると回答した児童の割合は、全国より相当低く、平成31年度に比べても相当低い。
- ◆ 週に1～3回以上新聞を読んでいると回答した児童の割合は、全国より低く、平成31年度に比べて相当低い。

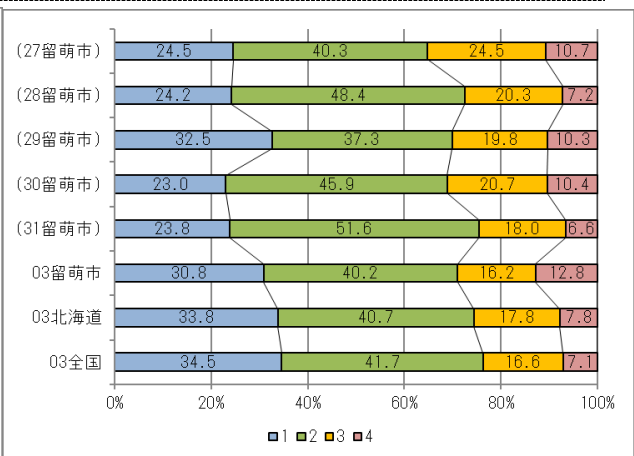
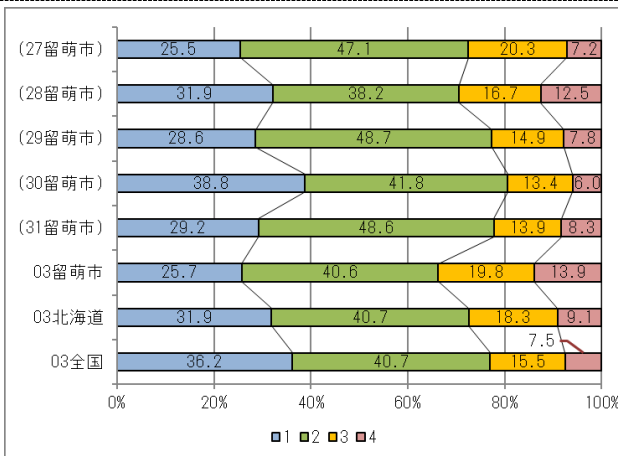
【中学校】

- ◆ 普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上勉強をすると回答した生徒の割合は全国より相当低いが、平成31年度に比べて高くなっている。
- ◆ 普段（月～金曜日）、1日当たり30分以上読書すると回答した生徒の割合は、全国より相当低く、平成31年度に比べても相当低い。
- ◆ 週に1～3回以上新聞を読んでいると回答した生徒の割合は、全国よりやや低く、平成31年度に比べてもやや低い。

4 規範意識、自己有用感等<児童生徒・学校>

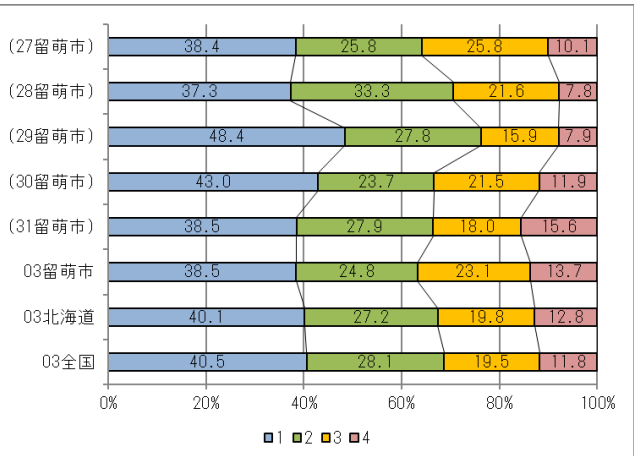
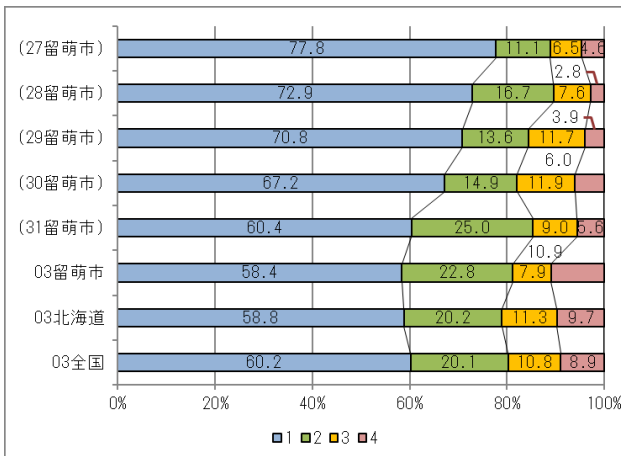
(1) 自分には、よいところがあると思いますか。

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



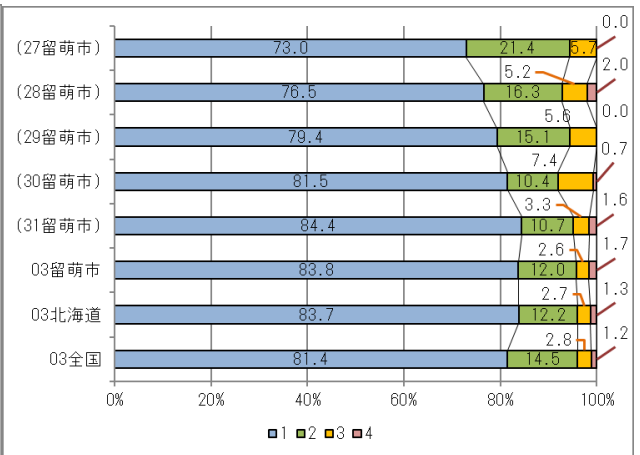
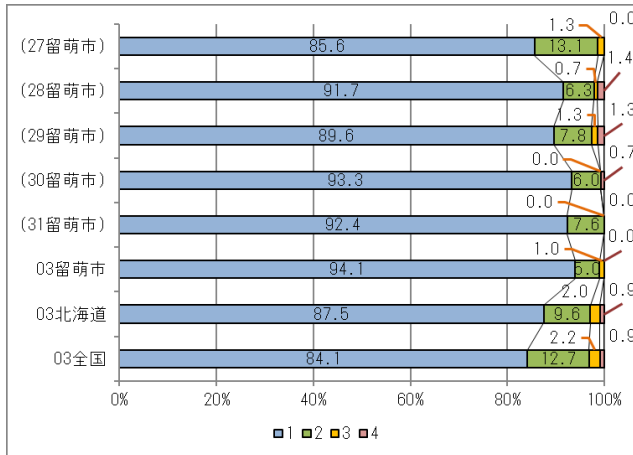
(2) 将来の夢や目標を持っていますか

選択肢は4の(1)と同様



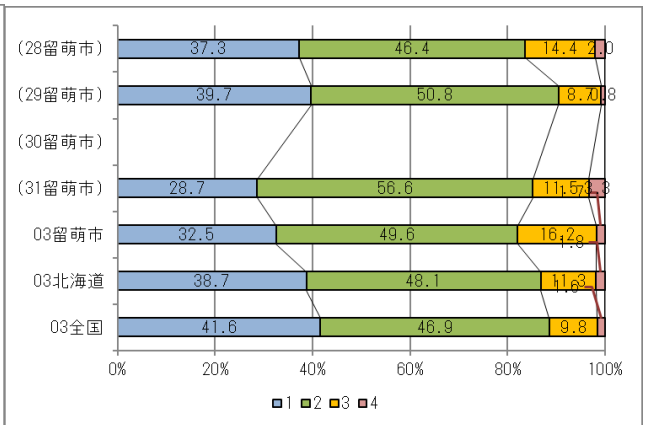
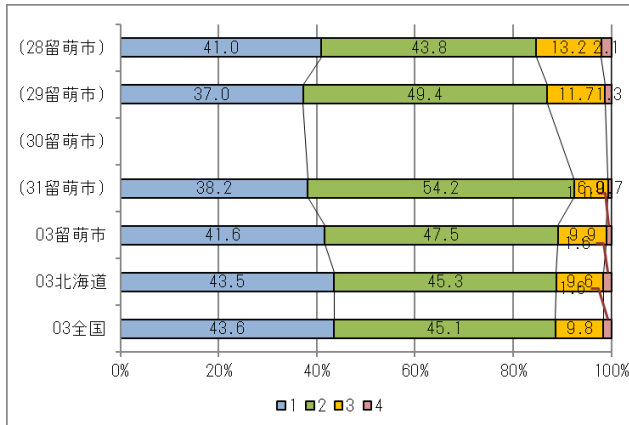
(3) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

選択肢は4の(1)と同様



(4) 人が困っているときは、進んで助けていますか

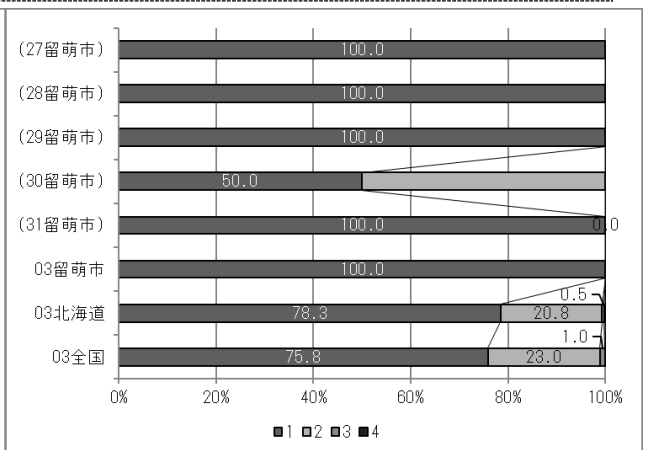
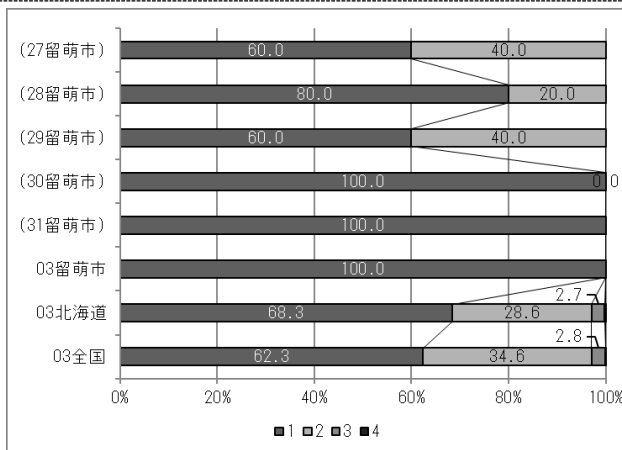
選択肢は4の(1)と同様



※ 平成30年度は質問なし

(5) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか

1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行わなかった 4 全く行わなかった



【小学校】

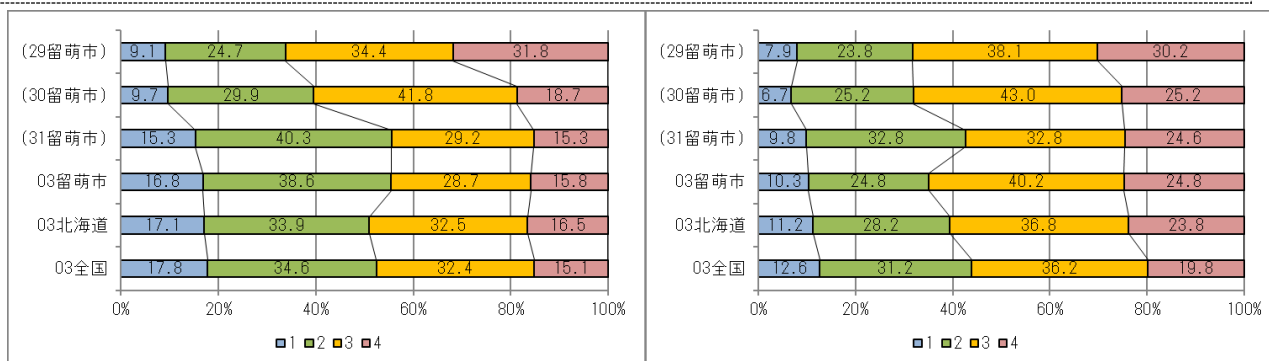
- ◆自分にはよいところがあると肯定的に回答した児童の割合は、全国より相当低く、平成31年度に比べても相当低い。
- ◆将来の夢や目標を持っていると肯定的に回答した児童の割合は、平成31年度に比べてやや低い。
- ◆いじめはどんなことがあってもいけないことだと、99%の児童が肯定的に回答している。

- ◆人が困っているときは、進んで助けしていると肯定的に回答した児童の割合は、平成31年度に比べてやや低い。
- ◆調査対象学年の児童に対して、前年度までに学習規律の維持の徹底をよく行ったと全ての学校が回答している。
- 【中学校】
- ◆自分にはよいところがあると肯定的に回答した生徒の割合は、全国よりも低く、平成31年度と比べてもやや低い。
- ◆将来の夢や目標を持っていると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より低く、平成31年度と比べてもやや低い。
- ◆いじめはどんなことがあってもいけないことだと回答した生徒の割合は、95%余りが肯定的に回答している。
- ◆人が困っているときは、進んで助けしていると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より低く、平成31年度に比べてもやや低い。
- ◆調査対象学年の生徒に対して、前年度までに学習規律の維持の徹底をよく行ったと全ての学校が回答している。

5 地域や社会に関する活動の状況<児童生徒>

(1) 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



【小学校】

- ◆地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあると肯定的に回答した児童の割合は、全国よりやや高い。

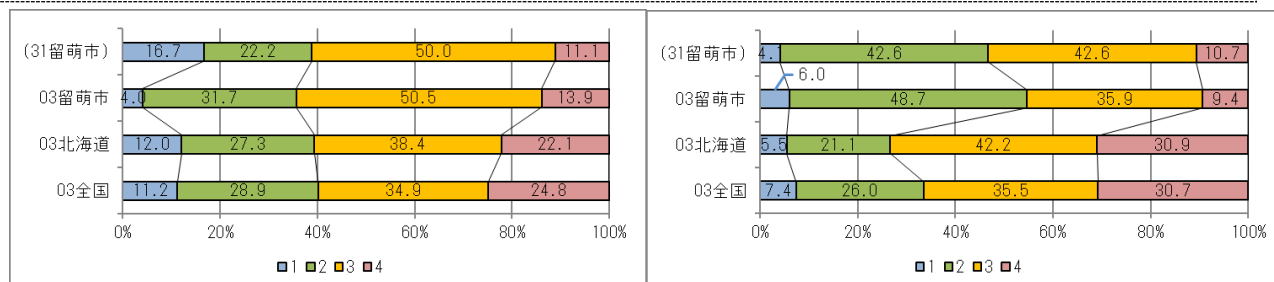
【中学校】

- ◆地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より相当低く、平成31年度と比較しても相当低い。

6 ICTを活用した学習状況<児童生徒>

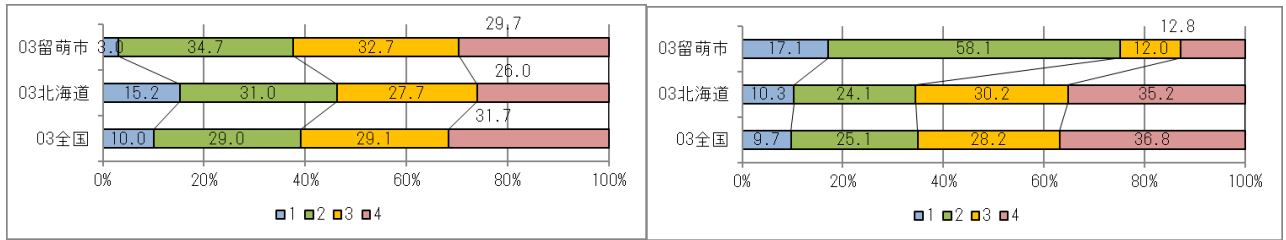
(1) 5年生（1、2年生のとき）までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使いましたか

- 1 ほぼ毎日 2 週1回以上 3 月1回以上 4 月1回未満



(2) 学校で、コンピュータなどの ICT 機器を、他の友達（生徒）と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか（新規）

選択肢は（1）と同様



【小学校】

◆ 5年生までに受けた授業では、週1回以上コンピュータなどのICTを使用したと回答した児童の割合は、全国よりやや低く、平成31年度と比べてもやや低い。

【中学校】

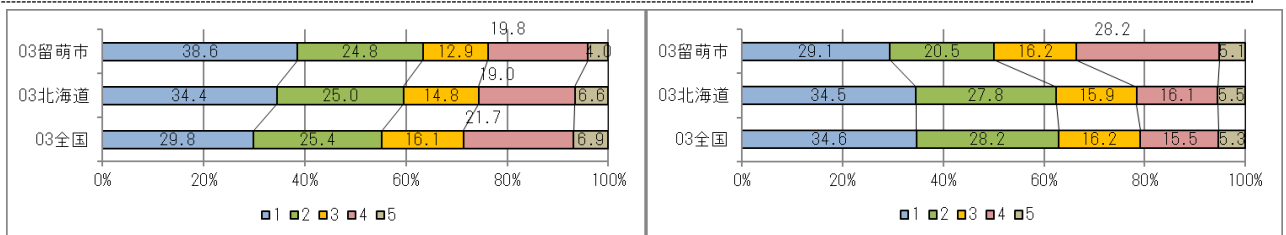
◆ 2年生までに受けた授業では、週1回以上コンピュータなどのICTを使用したと回答した生徒の割合は、全国より相当高く、平成31年度と比べても相当高い。

◆ 学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達（生徒）と意見を交換したり、調べたりするために週1回以上使用していると回答した生徒の割合は、全国より相当高い。

7 新型コロナウイルス感染症の影響＜児童生徒・学校＞

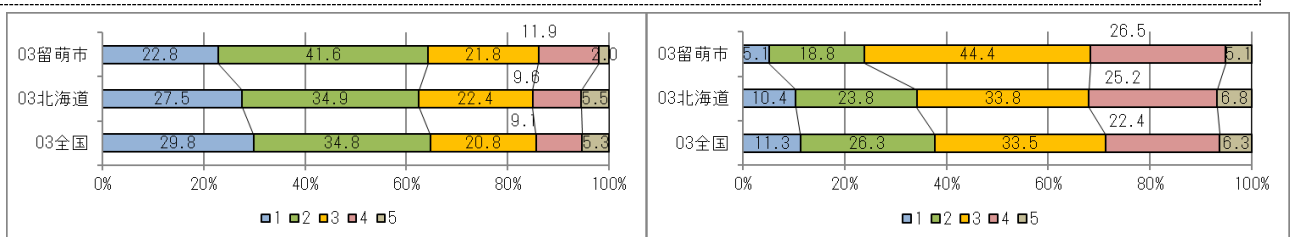
(1) 新型コロナウイルス感染症拡大で臨時休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか（新規）

1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない 5 思い出せない



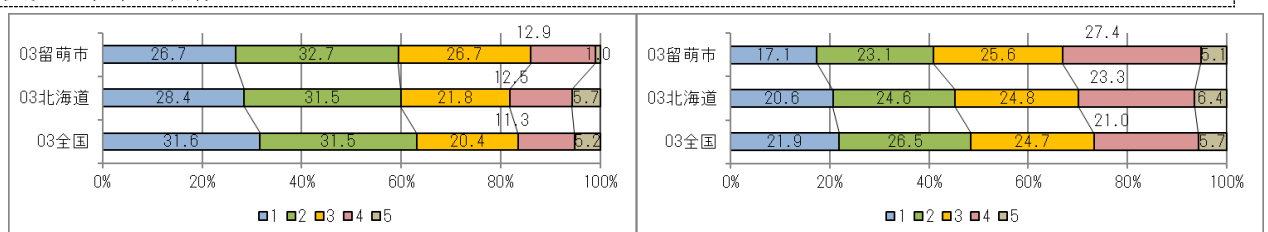
(2) 新型コロナウイルス感染症拡大で臨時休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか（新規）

選択肢は（1）と同様



(3) 新型コロナウイルス感染症拡大で臨時休校していた期間中、規則正し生活を送っていましたか（新規）

選択肢は（1）と同様



【小学校】

- ◆新型コロナウイルス感染症拡大で臨時休校していた期間中、勉強について不安を感じていたと回答した児童の割合は、全国より相当高い。
- ◆新型コロナウイルス感染症拡大で臨時休校していた期間中、規則正し生活を送っていたと回答した児童の割合は、全国よりやや低い。

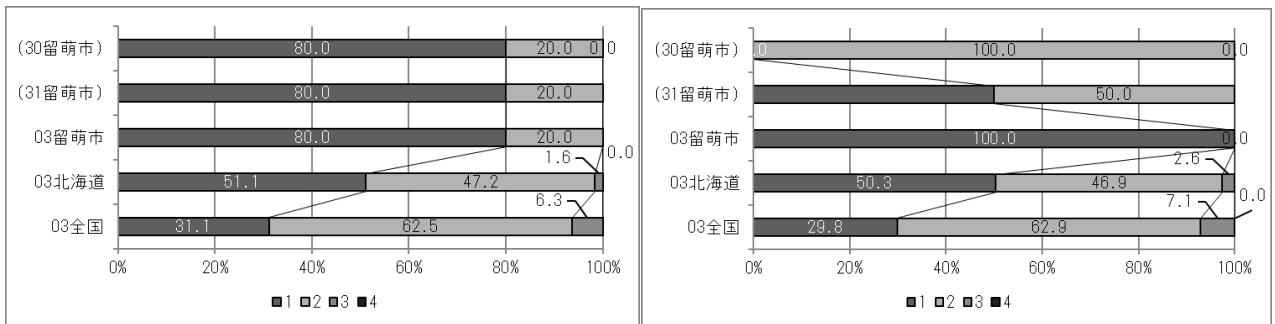
【中学校】

- ◆新型コロナウイルス感染症拡大で臨時休校していた期間中、勉強について不安を感じていたと回答した生徒の割合は、全国より相当低い。
- ◆新型コロナウイルス感染症拡大で臨時休校していた期間中、計画的に学習を続けることができたという回答した生徒の割合は、全国より相当低い。
- ◆新型コロナウイルス感染症拡大で臨時休校していた期間中、規則正し生活を送っていたと回答した生徒の割合は、全国より相当低い。

8 その他〈学校〉

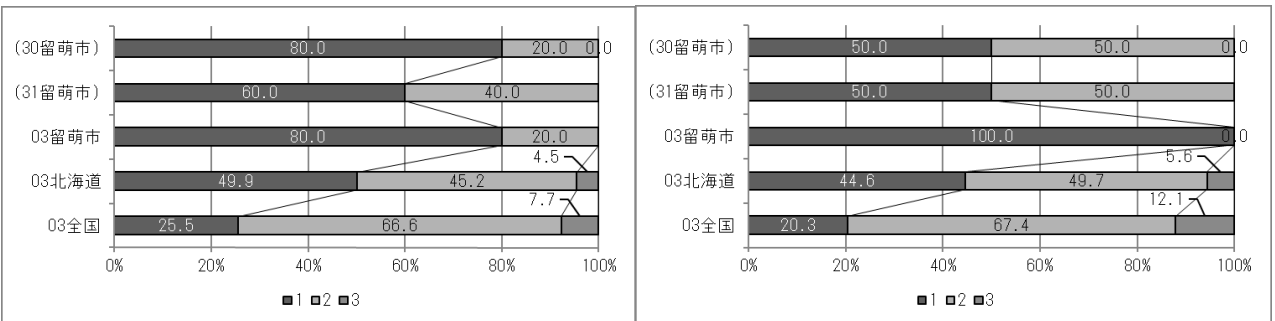
(1) 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している

1 よくしている 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない



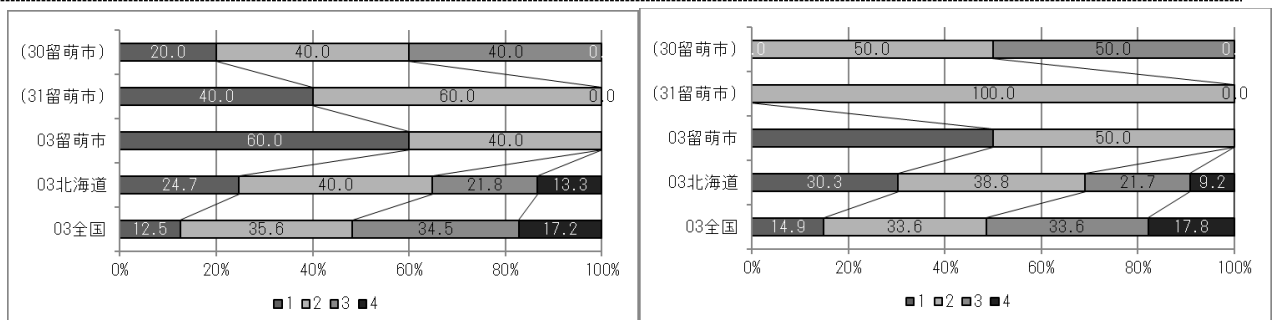
(2) 平成31年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

1 よく行った 2 行った 3 ほとんど行わなかった



(3) 平成31年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校（小学校）と成果や課題を共有しましたか

1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行わなかった
4 全く行わなかった



【小学校】

- ◆児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成、実施、評価して改善を図る一連のP D C Aサイクルを全ての学校で確立している。
- ◆平成31年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために全ての学校で活用している。
- ◆平成31年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、全ての学校で近隣の中学校と成果や課題の共有が行われている。

【中学校】

- ◆生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成、実施、評価して改善を図る一連のP D C Aサイクルを全ての学校で確立している。
- ◆平成31年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために全ての学校で活用している。
- ◆平成31年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、全ての学校で近隣の小学校と成果や課題の共有が行われている。

Ⅳ おわりに

本報告書は、全国学力・学習状況調査の目的から、留萌市の児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、まとめ、報告としたものです。

また、本調査の結果は、学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことを十分に踏まえた上で、留萌市の学力の全体的な傾向や児童生徒質問紙・学校質問紙から見える特徴的な事項等について記載しています。

各小中学校では、児童生徒の学力向上に向けて、「学校改善プランの立案と実行」「学校で統一した授業スタイルや学習規律の確立」「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」「放課後や長期休業中の学習サポートの実施」「一人一台端末などのICT機器の効果的な活用等、指導方法の工夫改善」など、様々な取組みを推進・展開しています。結果として、今年度は小中学校共に、国語は全国平均と比べ同程度以上にあり、下位層の割合も、全国、全道よりも低い傾向を維持しております。小学校算数については、全国平均と比べて3.9ポイント下回りました。中学校数学については、全国平均と差のない結果でしたが、過去の推移を見る限り、小学校も中学校も全国平均を下回ることが多く、今後も、算数(数学)の確かな学力の定着に向けた授業改善、学習支援等の充実が求められるところです。

一方、児童生徒質問紙・学校質問紙からは学習内容の確実な定着のために、学校と家庭、地域の共通理解のもと、引き続き学習習慣を確立できるよう家庭学習に関する取組を進めていくことが大切となります。さらに、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組むとともに、学習した内容を自らが振り返り発展的な学びにつなげられるよう、小学校と中学校が連携し、9年間を見通して、学力向上と生徒指導の両面から共通の目標の下指導に当たることが大切と考えます。

また、新型コロナウイルスに対する影響については、小学校で休校による学習への影響に不安を感じた児童が多いことが明らかになりました。さらに、小学校と中学校ともに、休業期間中に計画的な学習や規則正しい生活に支障があったとの回答も少なくありませんでした。

将来を担う児童生徒一人一人に「生きていくために最低限必要な学力」を身に付けさせることが、学校教育に携わる者の責務と考えます。今後も、留萌市教育委員会と各小中学校において、「今、目の前にいる子どもたち」の課題を改めてしっかり分析し、学校・家庭・地域が共有し、連携協働しながら目に見える形で改善に取り組んで参りますので、ご支援・ご協力を引き続き、お願い申し上げます。